

武蔵野市民科カリキュラム作成委員会の検討結果について

現在取り組んでいる「市民性を高める教育」をさらに充実・発展させ、児童・生徒一人一人に確実に市民性を育てていくため、「武蔵野市民科」として教育課程に明確に位置付ける。武蔵野市民科カリキュラム作成委員会での検討結果をもとに、各学校で「武蔵野市民科」の準備・試行を進めていく。

1 武蔵野市民科カリキュラム作成委員会の概要

- (1) 開催回数 平成 29 年 10 月～平成 30 年 12 月まで 計 10 回
- (2) 主な検討内容
- ・武蔵野市民科の必要性
 - ・武蔵野市民科の目標と育みたい資質・能力
 - ・武蔵野市民科の学習内容と指導上の留意点
 - ・小中連携教育研究協力校による授業提案に基づいた検討
 - ・教員向け手引の検討
- (3) 作成委員 学識経験者(1) 小中学校長会代表(1) 小中学校副校長会代表(1)
教員(3) 保護者代表(1) 地域代表(1) 行政(3) 合計 11 名

2 武蔵野市民科の必要性

(1) 市民性育成に関する

本市のこれまでの取組

- ・平成 24 年、武蔵野市第五期長期計画の中でシチズンシップ教育の推進が記載される。
- ・平成 27 年、第二期武蔵野市学校教育計画の施策の一つに「市民性を高める教育」を位置付ける。
- ・各教科や総合的な学習の時間等の内容で市民性（自立・協働・社会参画）に関わる内容を意識して指導することを、各学校に指示。
- ・児童会、生徒会などの自治的活動を推進。
- ・「武蔵野市のいま・むかし」の作成・活用。

(2) 新学習指導要領が目指すもの

＜現代社会の情勢＞

- ・グローバル化
- ・急速な情報化、技術革新
- ・地域のつながりの希薄化
- ・世界全体を取り巻く環境、貧困、持続可能な開発などの課題

複雑で予測困難な時代へ

「様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるようにする」ことが学校に求められている。

市民性（社会の一員として、よりよい地域・社会づくりに参画していく資質・能力）の育成は、さらに重要になっている

(3) 武蔵野市民科を位置付ける意義

- ・「武蔵野市民科」として教育課程に明確に位置付け、カリキュラム・マネジメントの中核に据えることで、組織的・計画的な実践が可能となる。
- ・組織的・計画的な実践により、教員が異動したとしても、継続的な取組が可能となる。
- ・各学校が計画的な実践を行う際に、小・中学校間の系統性も考え、協議することで、小中連携も促すことができる。
- ・「武蔵野市民科」として教育課程に位置付けることで、市民性を高める教育の必要性を地域や保護者に発信しやすくなり、協働体制の構築にもつながる。

3 武蔵野市民科の目標

武蔵野市民として、自己・学校・地域・社会の中から課題などを見付け、解決しようとする取り組みをとおして、自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な「自立」「協働」「社会参画」に関する資質・能力を育てる。

4 武蔵野市民科で育成を目指す資質・能力

	自立	協働	社会参画
主に「知識・技能」の習得に関する項目	・自己理解、自己管理	・他者理解、人間関係形成	・地域や社会的課題などへの理解
主に「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する項目	・情報を活用する力 ・クリティカル・シンキング（批判的思考）	・目標達成に向けた他者との協力	・よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
主に「学びに向かう力や人間性等」の涵養に関する項目	・規範意識、責任感 ・自尊感情（自己肯定感）	・よりよい生活を協力して築こうとする態度 ・自己有用感	・公共心や、社会連帯の自覚

5 教育課程上の位置付け等

- ・児童・生徒の発達段階を踏まえ、実施学年は、小学校第5学年から中学校第3学年までとする。
- ・武蔵野市民科は、総合的な学習の時間、各教科、特別の教科 道徳、特別活動等の学習内容を教科等横断的な視点で単元を構成する。
- ・各学校のこれまでの実践を生かし、各学校で適切な単元を構成し、課題解決的な学習を行う。
- ・中心教科における評価を基本とする。多くの場合、総合的な学習の時間における評価を基本とする。保護者には個人の取組状況とその成果を通知表の総合的な学習の時間の所見で報告する。

6 今後の取組

- ・平成 31 年度当初に指導主事が各学校に出向き、直接、教員に武蔵野市民科の趣旨等を説明する。
- ・平成 31 年度から2年間で準備・試行期間とし、各学校では、「武蔵野市民科 教員向け手引」を基にした武蔵野市民科の指導計画の作成、実践事例の蓄積、実施にあたっての課題の抽出・検討を行う。
- ・平成 31 年度に各学校の教員代表を委員とする「武蔵野市民科カリキュラム検討委員会」を立ち上げ、各学校の実践例の共有や課題等の検討、小・中学校間の連携の推進を行う。
- ・保護者や地域に向けて、「きょういく武蔵野」等を活用して、その趣旨や今後の予定等を発信していく。